



なにしょんな

発行責任者
企画
池田克彦
編集人
矢田敏雄高松・塩江ふるさと会事務局
〒220-0101
神奈川県相模原市城山町町屋 3-14-13
電話・FAX 042-782-8630
電子メール CYR02356@nifty.ne.jp
ホームページ
<http://www.takamatsu-shionoe-furusato.com>

ふるさとのご報告

会 長
(高松市観光大使)
池田 克彦

昨年11月ふるさと塩江での植樹から早や5ヶ月経過し桜のシーズンを迎えました。会員の皆様ご健勝の事と存じます。ふるさと会へのご支援ご協力いただき有難う御座います。さて早速ですが、町便りをご案内します。

1. 香川県20年度当初予算概要発表される。

1) 一般会計4278億6100万円

前年度比▼3.5% 厳しい予算編成

2) 財政再建と地域の活性化の両立を目指すため、「産業の活性化、観光・にぎわいづくりの推進」、「文化技術の振興、中枢拠点機能の強化など地域の活性化策、自然災害対策、渇水対策、医療の確保など安全・安心の確保策」、「働く場の確保や小児化対策をはじめとする人口減少対策」の分野に重点的に予算配分。

2. 香川県のイベント紹介

1) 2008 瀬戸内海メモリアルイヤー香川として、瀬戸大橋開通20周年、オリーブ植栽100周年(オリーブ百年祭)、ハマチ養殖80周年、世界麺フェスタ(世界麺フェスタ2008in さぬき)、かがわを歩かうどんツーリズムの計画。

2) 5月31日13時から東京さぬきクラブでさぬきうどんを打って食べる会を開催。(問い合わせ県東京事務所電話03-5212-9100) 6月14日(土)塩江ホテルまつり(自然休養村センター前広場)を予定。11月4日(火)18時から東京會館(東京駅丸の内)で香川県人会創立60周年記念総会が開催されます。

3. 高松市20年度当初予算が3月の定例議会で可決。

予算編成で大西市長は、議会の代表質問に新総合計画に Manifesto に掲げた政策などに財源を重点配分すると共に、市民との対話集会での意見も出うる限り反映、特に、環境・コミュニティ・教育に配慮したほか、小児化対策の充実にも予算計上した。と答弁。

1) 一般会計予算 1339億600万円

2) 高松市老人福祉センター奥の湯事業特別会計予算1億4573万円

3) 塩江簡易水道事業会計予算1億8171万円

4. 第5次高松市総合計画(新総合計画)を策定。合併から新しい高松市を築いていく計画。

1) 計画は、基本構想とまちづくり戦略計画の構成。基本構想期間は平成20年度から27年度。
2) まちづくりの基本的考え方・・・ソフトの重

視、拡大基調から転換、州都機能の確保と交流人口の拡大、地域コミュニティを軸としたまちづくり、地域の未来と活力を支える人づくり。

3) 目指すべき都市像・・・文化の風かおり

光かがやく 瀬戸の都・高松

4. 4月高松市役所の組織変更と人事異動がありました。塩江支所長(旧塩江町役場)で長年塩江町の行政に担われ前町長の中井弘氏が退任された。長年のご勤務大変ご苦労様でした。我がふるさと会が大変お世話になりました事、紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。支所長の後任は、これまでご支援ご指導戴いた尾形進氏。

5. 塩江の竹が注目される・・・竹はし「MY 箸：マイハシ」と竹炭。地元の山の竹を活用。

まちかど漫遊帖・・・たかまつ松平藩 そぞろ高松ごゆるり参ろうで塩江岳八幡ハイキングとしおのえ事始めが企画される。(楠明子さん担当)

特集 ふるさとの春

退任にあたって

高松市塩江支所長(前塩江町長)中井弘



高松・塩江首都圏ふるさと会の皆さん本当に長い間有難うございます。

私も去る3月31日を以って支所長を最後に地方自治の現場から去ることとなりました。振り返りますと、戦後の混沌した世相の中で、昭和22年から旧安原村の職員として就職以来60年の長い間、塩江町の歴史と共に歩み、新しい高松市に於いては支所業務に携わらせて戴きました。

この間、昭和31年の昭和の大合併には当時の議会事務局として、又平成の大合併に於いては町長として直接新しい時代を切開くための苦しみを味わってきました。この間数多くの心に残る出来事がありました。昭和の合併間もなく、新聞紙上でも大きく報道されて来た北海道夕張と同様、財政再建団体として財政の再建に携わり、又昭和30年代後半からの再度再建団体としての再建は、国の特別きびしい指導の中での財政再建であり、直接その事務に携わった苦い経験は大きな思い出の一つであります。その他塩江中学校統合についての問題は、賛成、反対の全町における署名運動も起こった中で統合や又椋川ダム建設に伴う地元の意見集約、新清掃工場の塩江町橋谷地区での建設は、丁度私が町長就任直後のことでもありました。国道193号線沿線には「反対」の立て看板が林のように立てられ、全町での署名も千数百人にもものぼる署名を突きつけられなど、その是非の決断は今思

い起こしても、格別感慨深いものでした。

平成15年頃から始まった高松市への合併についても時代の要請とは言いながら塩江町半世紀の歴史に終止符を打つ大事業であり、民意の集約に多くの人々の真剣な努力が重ねられたのでありました。私はこの塩江町の長い歴史と共に歩んだ中で心温まる出来事の中でも、脳裏に深く刻まれたものに、ふるさと塩江会の皆様方の温かいふるさとに贈る愛情が私にとって大きな心の支えであったことは、今も痛切に思い起こされることであります。

「ふる里は遠くにありて思うもの」と言うことがこのふるさと会には満ち満ちておるものがあります。そのふる里で生まれそして育ち、そこに骨を埋める私にとってこれ程有難いことはありません。この会を主宰される池田会長様には心から敬意を表したいと思ひます。

私も退いたとは言えふる里塩江を離れることのできない者として、この広大な自然の中で快適に余生を送ることに専念したいと思っております。どうか会員皆様方に於かれてもご健康には充分気をつけられてご活躍されますようお祈り致します。私も機会を見て皆様方にお目にかかる日を楽しみにしたいと思っております。

植樹の桜を見てきました



ふるさと会理事 沢田登美恵

昨年11月高松・塩江首都圏ふるさと会と東京・別海ふるさと会及び地元関係者等の皆様と共同で私のふるさと塩江で植樹を行いました。有難う御座いました。その中で枝垂れ桜5本の内1本ですが、雨上がりの朝写真を撮りました。帰省は3泊そのうち半分は雨(春雨)でしたが、帰る日は全部見事に美しく咲いていたことを確認しました。傍の藤川牧場で新鮮な牛乳とソフトクリームを頂き、又ペンション「とまと」のシェフのおもてなし料理は素晴らしいものでした。心も身体もリフレッシュ楽しい日を過ごさせて頂き幸でした。植樹記念碑も燦然と輝きご参加して頂いた皆様のお名前が刻印されて半永久的に残る事は感動的です。



(植樹したしだれ桜)



(記念植樹の碑)

今年の秋（11月）もみじ（黄金の紅葉）の鑑賞がとても楽しみです。植樹にご参加された方及びふるさとに帰省された方も是非植樹した場所へ訪れただければ幸いです。

植樹した枝垂れ桜ともみじ



高松市塩江町 中條定男

高松・塩江首都圏ふるさと会の皆様お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

「春の来ない冬はない」と言いますが、厳しかった冬もいつしか過ぎ去り、塩江にも少し遅れながら爽やかな陽春がやってきました。

過日、東京の池田君から原稿の依頼があり、昨秋植樹をした現場を何回か見に行きました。皆さん喜んでください、枝垂れ桜は見事花を咲かせ、もみじは柔らかな若葉を枝いっぱいにつけていました。



(植樹した枝垂れ桜)



(植樹したもみじ)

私の拙文より「百聞は一見にしかず」です。昨年11月11日、汗を流したふるさと会はじめ東京・別海ふるさと会及び各団体関係者の方々本当にご苦労さまでした。また植樹以降今日までいろいろ管理していただいたであろう藤川牧場をはじめ近隣の方々ありがとうございます。また、植樹祭の一週間後（11/18）植樹祭をした場所からほんの少し離れた上西小学校体育館で、上西校区連合自治会主催の環境シンポジウムが開催され、市観光大使でふるさと会の池田会長がパネルディスカッションのパネラーとして、ふるさとについての熱い思いを強く訴えました。こうしたことは地元新聞でも報道され、自然環境を守る啓蒙運動に強い影響を与えていると思います。余談ですが、私が「なにしょんな第14号（2007.4.8）」ふるさと便りで「東地のウバヒガン桜」について少し触れたところ、後日ある方から電話で問い合わせがありました。思わぬ

反響に驚いた次第です。ところで残念ながら枯れた東地のウバヒガン桜の幹は内場ダム湖畔に開設された「セカンドステージ」ロビーに展示されその勇姿を後世に伝えています。これも併せて写真でご覧下さい。なお「セカンドステージ」は田舎暮らしが体験できる短期滞在型の宿泊施設ですので、関心のある方はぜひ問い合わせをしてはいかがでしょうか。以上ふるさと塩江だよりでした。

滞在型リゾートホテル「セカンドステージ」を立ち上げた経緯と目標



NPOしおのえ代表 喜多維昭

十数年前、塩江でも最もグレードが高くキャパも大きい、塩江発展のシンボルとして期待されていたリゾートホテルが破綻して放置されていました。施設の周囲は雑草、樹木が茂り不法投棄の捨て場となり、衰退塩江のシンボルとささやかれる程傷みがひどく、見るに耐えない状況が続いていました。

行政（町当局）も何とかしようと必死の努力をしていましたが、良い方向に行かず対応を苦慮していました。「努力したがあんともならん、お前の所で何とかならんか」との当時の町長よりの提案があり、施設使用に向かってスタッフが検討に入りました。以前から塩江は、自然（山と水）に恵まれているのでこれらを活用して「町作り、地域の活性化」を図りたいと思っていましたので、リゾートホテルを加えることによりバリエーションが増え現実味が増し、やろうという事になりました。とは言ってもサービス業の経験を持ったスタッフはなく、百姓と木こりと零細な事業主の集団なので、それぞれの得意分野が活かせる内容にしようと考えました。時おりしも、団塊の世代が大量に輩出されるに併せて、第2の人生を選択する一つとして、田舎暮らしを満喫し、生活習慣病の予防、体質改善を図りながら、地域の活性化にもお力をお借りたいとの事で、立ち上げを決意しました。



(セカンドステージ概観) (ウバヒガン桜の幹)

「セカンドステージ」は今春オープンしましたが、香川県高松市塩江町上西の内場池湖畔に、高級リゾートホテル跡を改築し周辺に田畑やビニールハウス、牧場、工房を整備し、自由気ままな田舎暮らしで「第二の人生の活力をここで養ってもらえれば」と。また、▽運営に携わる地域住民の生きがいがいづくり▽介護予防▽地域のにぎわい創出—の3つの目標を持っています。施設利用者には、日々の活動と併せて地域イベ

ントへの参加して頂ければと思っています。



(セカンドステージの花園と農地)

建物は、鉄筋コンクリート7階建ての本館と同3階建ての別館があり、両館で計65の客室を備え利用者は、周辺施設で他の利用者らと協力しながら農作業などに従事する。自分の趣味に合わせて陶芸や木工、竹細工などを学ぶこともできます。首都圏や京阪神を中心に県外にお住みの団塊世代や定年退職者の方にご入居戴きたく、1300年前、行基菩薩が発見したと言われる塩江温泉郷の隣接であるセカンドステージで、第2の人生をお勧めします。滞在費は夫婦2人で月額20万円からありますが、詳細なお問い合わせは、セカンドステージ 電話087-893-1100までお願いいたします。ご来所を心より歓迎致します。

事務局よりお知らせ

- 今年7月12日（土）11時から都内銀座sun-mi高松で、合併以来延期していましたふるさと会の総会を開催致します。詳細は後日ご案内いたします。併せ今後会員募集も予定します。
- 東京・別海ふるさと会の総会が4月19日市ヶ谷で別海町の水沼猛町長ご出席のもと開催され、お世話になった真壁会長が退任された。13年間長きに渡りご苦労様でした。後任の新会長は新家鶴男氏。この場で高松市観光大使の役割と同席の我がふるさと会役員の沢田理事・大峯理事がセカンドステージの営業活動を致しました。
- ふるさと納税が地方税法改正として衆議院で可決しました。大都市に住む地元出身者の寄付が県高松市の財源になる仕組みです。新総合計画等を支援する意味から、首都圏・関西圏に住む人間が何をどうすればよいか、今後ご意見お話を聞きふるさとに貢献したいものです。
- 早稲大学の宮口教授が国の過疎問題懇談会座長として、過疎地域を支援する法律が2010年3月に失効する事から、何とかいい方向を見出せるよう頑張りたいとご支援を求められる葉書を戴いた。塩江からご意見があればお願いします。次に、塩江の竹の利活用で今後商品化を考えるなら、群馬工業高専の小島副校長の知見を伺うのもよい時期かもしれません。関係者のご連絡をお待ちします。

編集後記

昨秋、植樹した枝垂れ桜が見事に花を咲かせたとのこと。5月の連休に帰省する予定なので、ぜひ、訪れたい。また、内場池湖畔のかつてのリゾートホテルが「セカンドステージ」として新たに今春オープンしたことは、ふるさとの地域活性化にも非常に役立つので今後は、楽しみです。（編集人 矢田敏雄）